

ビャクシンマダラメイガ

6月にビャクシン類につくイモムシ（幼虫）。体長最大約20mm。集団で糞と枯れ葉を綴って巣を作る。

庭などのミヤマビャクシン（シンパク）でときどき多発する。



1. 老齢幼虫, 1991/6/1. 新得町, 庭のミヤマビャクシン.



2. 幼虫の巣. 1991/6/1. 1の巣.

【学名】 *Dioryctria juniperella*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , メイガ科 (Pyralidae)

【分布】 北海道.

【生態】

宿主：ミヤマビャクシン.

年1世代のようである。幼虫は春に集団で虫糞と枯れ葉をつづって巣を作る。食害は6月に目立つ。巣の中で繭を作り蛹になる。成虫は7月に出現する。

【被害と防除】

庭などのミヤマビャクシンで多発することがある。春に巣が目立つようになるので、みつけて取り除く。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場研究報告, 22: 85-129.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ビャクシンマダラメイガ meiga/byakumad/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/9/29.

1yochu.jpg, 1yochusu.jpg

「写真1～2」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991.

